



SHOW COM

Vol.11

～最新のお笑い情報をいち早くお届けするフリーペーパー『SHOW COM』（ショーコン）～

Special Interview

うしろシティ&ラブレターズ



このDVDは、「いじめられていた」「友達がいなかった」「ド田舎だった」など、さまざまな理由で青春を謳歌できなかったうしろシティとラブレターズが大人になった今、とある学校を貸し切りにして、やりたかったことを4人でとにかくやり尽くす、その記録なのだ……。

●とっても贅沢なDVDですね。うしろシティ金子学（以下：金子）：そう思います。こんな僕らが学校を貸し切ってるって時点で、本当に贅沢ですよ。ラブレターズ塚本直毅（以下：塚本）：“やりたいことありますか？”って聞かれたので、“じゃあ、学校貸し切って、あの頃やりたかったことを”って言ってたら、ポンポンと話が進んで、いやー贅沢。企画会議を何回かして、ロケもしたんですけど、途中までウソかと思ってましたもん。金子：無理だろうと思ってたら、“貸し切れました”って。最後、すげー額の領収証を渡されるんじゃないかと（笑）。『うしろシティ・ラブレターズ』って付いてますけど、ただのだっせえクラスの1日を、究極に暇な時に観るDVDです。

●2組の共通点は？ラブレターズ溜口佑太郎（以下：溜口）：似たものを感じてはいましたけど、でも僕らのほうがイケてないというイメージでした。塚本：今回一緒にやってみて初めて、ガツツリこっち側の人間なんだってわかりましたね。溜口：闇がね（笑）。塚本：それまでのすべてがプロだなと思いましたよ。よく漏れねえなって。うしろシティ阿諏訪泰義（以下：阿諏訪）：ラブレターズは漏れ出てるじゃないですか、“リア充じゃなかったんだらうな”っていう感じが。僕もそうだったので、元々すごく親しみを持ってたんですよ。ただ、僕はあんまりそこが漏れ出でなかったから。溜口：だから最初、うしろシティさんは住む世界が違う人だと思ってました。金子：ちょっと待って！お前阿諏訪のことしか見てないし。

塚本：気づきました（笑）？金子：僕は、イケてるイケてないっていうところでラブレターズと接してなかったし。単純にお互い、“変な人より、普通の人の変なところが好き”っていう共通点があった。ネタとか観てたらわかるじゃないですか。変な人はそりや変だけど、普通の人の変な部分を探すほうが面白いって。塚本：好きになる対象が一掃みたいなことですよ。金子：そうそう。たぶん僕らみんな、“いやいや、お前”っていうスタンスなんです。だからこのDVDを収録する前は、そこがすごく似てるなと思ってたんですが、収録してみて“ああ、そういう理由でね”っていうことがわかった。

●学校ロケの感想は？溜口：思い通りにいったところもあるし、「校庭に迷い込んだ犬をつかまえる」みたいな、全然思ってたのと違うところもあるし（笑）。金子：終わってみたら、“ああ、こういうことだったんだ”っていう統一感がありますね。阿諏訪：これたぶん、あんまり良くないことなんでしょけど、笑いを取りにいこうっていう感覚よりも、この夢のような時間が叶ってみたい感覚でした。溜口：あの頃を全力で取り返そうっていう。金子：やりたかったこと“まっすぐやる”じゃないんだよね。やりたかったけど、やれなかったことを“やらせていただく”みたいな。溜口：話し合いの時点で終わったりする部分もありましたね。なんか、一番そこがピークだった（笑）。金子：結論と終わりの決まってるじゃない。毎回カットかかるまでやってた。学生時代って、チャイム鳴ったら授業戻るじゃないですか。その感じですよ。そういう意味じゃ、俺らのやってることってプロじゃなかったよね。溜口：“あー、これやれなかった”とか、そういうのまったくなく。金子：そうそう。 “わー、あそこもつと

人気と実力を兼ね備えた若手コンビ2組によるオリジナル・コラボ企画DVD!

こういうポケあったな”とか思わなかった。塚本：とにかく学ラン着てはしゃげれば満足ですよ。

●一番テンションが上がったところは？金子：学校、学校、学校です。学校貸し切り。都会の学校が初めてだったので。窓から見える景色。溜口：金子さんはね（笑）。金子：マンションとか電線でしょ。あと、高速道路があつて。ビルとか店。他の人には当たり前なかもしれないですけど、変な違和感です。“こんなとこに学校ねーだろ!”ってツッコミましたもん。ポケてるなあって。リッチ。リッチ・ポケてる。学校帰りにカラオケ行って、マック行くとか。いや、ないないないない!

ラブレターズ、阿諏訪：（爆笑）阿諏訪：僕は、実際に学校に行ってみて初めて思い出したことがあったんですけど、撮影の休憩中に画鋲を見つけて。画鋲を持った時に、“画鋲を投げつけて壁に刺さる遊びをやってた”って思い出して。金子：ダーツみたいな。阿諏訪：それを思い出した時に、テンション上がりましたね。実際にやりましたもん、ひとり。ちゃんと刺さったんですよ。塚本：誰もその場面見てないです。阿諏訪：ああ、たぶん僕、“やろうよ”っていうのがないんですね。金子：“やろうよ”って感覚、阿諏訪ないよな。

阿諏訪：ないないないない。塚本：でも、確かに僕も“これやろうよ”って、学生時代に言ったことないです。阿諏訪：ないでしょ？溜口：確かに、それはないわ。金子：いや……。塚本：あるんですか？金子：……その、でも、溜口とかは、大人になって、ずっと戦ってて、その辺剥き出しにしてるから、今は“やろうよ”って周囲に言えるし、言われてるけど、阿諏訪って今に“やろうよ”って言わないとこがあつて。それを知らない人が、阿諏訪に対して“やろうよ”って言いかけるじゃないですか。その時にみんな気づいて、“あれ、この人、やろうよの人じゃない”って立ち止まる。“やろうよ”をやらなきゃ過ぎると、その空気が出るんだと思います。阿諏訪：本当、培ってきたものなんですよ。なんか“一緒に”っていうのが申しわけないって思うんですよ。

溜口：そうですよ。自分に時間を付き合わせるのが。金子：“アメリカに小学校から高校まで行ってました”みたいな人が英語を喋れるのが当たり前なと一緒で、阿諏訪にとって特別なことじゃないんですよ、それは。溜口：僕がテンション上がったのは、自分より下の人間が現れた時。

塚本：阿諏訪さんね（笑）。溜口：卒業アルバムとか見て、俺よりイケてない奴が出てきた瞬間、あれは嬉しかったですね。自分もヤバいんですけど、“ヤバ、これが”とか思って、ふふ。学校では自分が下だったけど、総合で言ったら、けっこう上のほうだったなあ。今まで阿諏訪さんをそう見たことがなかったのに。金子さんは土地があれだったんで、あれですよ。

金子：土地があれってやめろ！溜口：阿諏訪さんはもう、すごく上のほうのイメージがあったので、その人がグンッと下がった瞬間？ああ、あれあれ一つ。

●このDVDをどう楽しんで欲しいですか？阿諏訪：単純に笑えるので、人生がどうっていう大それたことではなくて、学校での嫌なことを忘れられるって意味で、普通に観て欲しいです。

金子：卒業して、東京に出てきてからしんどくなるパターンもあるから。人生どこでしんどいのが来るかわかんない。

溜口：イケてない原因は自分にもあるんだぞって、自分を見つめ直すメッセージもあるんじゃないかなと。自分が変われば環境が変わるぞっていう思いもある。

金子：イケてない奴らが集まったDVDですから、キャッチ・コピーは“ちゃんと理由がある”。イケてないのには、ちゃんと理由がある。

阿諏訪：だいたいみんな30歳なんですけど、30歳がこんなことをしているDVDなので、どんな環境にいる人も単純にカラッと笑えるDVDになってると思います。溜口：1回観ただけじゃわからない、何回も観て、何回も何回も発見があるDVDですよ。普通のネタDVDとまったく違う内容なので、ずっと10年20年、たぶん、息子とか孫に観せても共感できる、素晴らしいDVDです。

塚本：イケてなかった出身の我々みたいなもんが、はしゃいでる様って、たぶん、いろんな層の人から見て、共感して笑ったりとか、バカにして笑ったりとか、どなたからでも観て面白いものにはなってると思うんで、ぜひ観てもらえたらと思います。

金子：これ、あれだらうな。クラスのみんなも見たら、笑うタイミングとかちよっと違うんだらうね。イケてる奴が笑うタイミングと、イケてない奴が笑うタイミングと。塚本：そうそう（笑）。



『うしろシティ・ラブレターズの居残り学級会～あの日みんなが見た青春を僕達はまた知らない。～』

人気と実力を兼ね備えた2組による、オリジナル・コラボ企画DVD!! ユニット・コントも収録。

ANSB-55213
¥3,000+税 販売中

神宮前四丁目視聴覚室

【第11回】香川県在住のお笑いDVDコレクター 菅家しのぶの名盤DVDレビュー!

太田プロダクション所属のお笑いコンビ、アルコ&ピースのベスト・ネタを収録した一枚だ。『THE MANZAI 2012』で披露した高く評価された漫才「忍者」、『キングオブコント2013』で披露して高く評価されたコント「受精」など、全10本のネタを堪能することができる。

正直、以前のアルコ&ピースのネタは、あまり好みではなかった。独創的なコント

を演じたいという志向そのものは好意的に受け止めていたが、その方向へと進むために必要不可欠な発想力が彼らには欠けていたからだ。そう感じていたからこそ、『THE MANZAI 2012』で見た「忍者」には驚かされた。「忍者になって巻物を取りに行きたい」というベーシックな漫才コントの導入に対して、「じゃあ、お笑いやめろよ!」と本気になって言い返し、自分たちの

現実について熱く語り始める。それは発想の弱さを「芸人として売れそびれている」という実情でカバーするという、いわばセミ・ドキュメンタリーな漫才だった。アーティストになりきれなかった彼らだからこそ辿り着いた、新しい道といえるだろう。

このスタイルは今、彼らがパーソナリティを務めているラジオ番組『アルコ&ピースのオールナイトニッポン0』でも活用されている。番組冒頭で発表されるメール・テーマの元、全篇に渡って繰り広げられるふたりのコント混じりのやりとりと、リスナーから送られてくるメールとが、激しくうねりを上げていく様は必聴だ。

現実と虚構の間で揺れ動く笑いのグルーブを今後とも、何卒。

菅家しのぶ(すがやししのぶ)

1985年生まれ、香川県在住のお笑いDVDコレクター。お客さん目線のお笑い考察でブログ「土曜深夜の視聴覚室」(移転しました!)やTwitterを中心に注目集めている。Blog: <http://sugaya03.hatenablog.jp/> Twitter: @Sugaya03



アルコ&ピース『博愛』
THE MANZAI 2012で披露された「忍者」を含む漫才、観る者を異世界へと引きずり込む独特のコント、さらに漫才・コントどちらとも言えないネタまで、全10ネタを収録!
ANSB-55143
¥2,857+税 販売中

宇宙 日本 居酒屋

うしろシティ・阿諏訪泰義の書き下ろしコラム! Vol.10『中野ジャスミンハイ』

文・写真:阿諏訪泰義



お笑い芸人や劇団員やバンドマンなどが多く住む中央線サブカルチャー地域一の繁華街の焼き鳥屋で、深夜にひとり今日の終わりを待っていたら、入り口のドアが勢いよく開いて、60歳くらいのオッサンが酩酊しながら入ってきた。

ゴールデンベアーのポロシャツにスラックス、そして野球帽をかぶっている。変なおッサンの定番コーデである。ちゃんと、口角に泡もついている。偏見かも知れないが、見た目からして、ややこしそうな事を起こす雰囲気を感じ出している。

揉め事を端から観察することが大好きな私が色めき立って注目していると、店員さんもオッサンの風貌に危険を察知したのか、すぐさま「今日ちょっと品切れが多いんですけど……」と先手を打つ。するとオッサンは意外にも気さくに「あー、大丈夫。軽くつまんで飲むだけだからよー」と笑顔で言った。

私はトラブルの匂いがしなくなったことにガッカリして再びカウンターに向かい、お酒と向き合った。この1杯を干したら帰ろう。そう思っていたら、オッサンと店員のやり取りが聞こえてきた。

「砂肝とー」「あ、砂肝終わっちゃいました」「じゃ、皮を塩でー」「皮もないです」「ハツ

とぼんじりをー」「終わっちゃいました」「……手羽先、手羽先あるー!? 終わり?」「……すいません、ないです」「……何ならあんのよ」

ん。なにやら揉めそうな気がする。すかさずジャスミンハイをおかわりした。「えーつと、串ですとー……ベーコン餅が」「……ベーコンもち?」

これは揉めるぞ。焼き鳥において変わり串というのは基本的焼き鳥串があって初めて成立するサブ的な役割として存在するわけで、単体では勝負できるはずがない。よく焼いた皮を塩で、レバーをタレで、軽くシトウやイカダ(長ネギ串)などの野菜串を食べ、それを経た先に注文するものである。ましてやベーコン餅なんて60歳のオッサンからしたら串とは認めないほど邪道だろう。最初に断ってはいるものの「品切れが多い」レベルの話ではない。

これは揉めるぞ。私は前に頼んであったレバー串をひと口食べて戦況を見守った。「じゃ、それ3本」「はい!かしまりました!」あれ? 揉めない? オッサン! その蕎

麦焼酎とベーコン餅は絶対に合わないよ! 私のジャスミンハイがまったく進まない中、クチャクチャ、ズズ、とベーコン餅で酒を飲むオッサンの音だけが寂しげに響く夜。野球帽のオッサン=揉めるという偏見を自分の中から捨てた。



日本エレキテル連合の“コンテンツ電気”

日本エレキテル連合・中野聡子の唯一無二な存在感が炸裂するアートな世界! 【其の十】



いつもは中野さんがこちらのコーナーを担当させてもらっていますが、私も書いてみたかったので、今回は橋本が文章と絵を書かせていただきました。

去年末に発売開始したDVD『死電区間』で、私達のDVDが5本になりました。まだまだ作品を中野さんとたくさん作っていきたく

と思います。私はただ目立ちたくてこの世界に入り、やりたいこともなく、後先なんか考えず、その日1日が楽ければ良かった人生でした。でも中野さんと出会い、中野さんのアイデアと一緒に作品にする楽しみを知ってしまったから、そのために出来ることをやるという日々が、明るくて生き甲斐で仕方なくなっちゃいました。生き甲斐を見せびらかしたいので、ぜひ作品を観てもらいたいです。よろしく願います。



文・絵:橋本小雪

Pick Up Discs



『ウルトラ怪獣散歩～大阪/お台場/尾道・宮島編～』
寺社仏閣での撮影許可がなかなかもらえない一行が激進神社へ! 果たして撮影できたのか? 怪獣&星人の声を担当するのは、東京03!!!
ANSB-55210
¥3,500+税 販売中



『ナイツ独演会 額を引いて頑張れ』
2015年11月に国立演芸場にて開催された「ナイツ独演会」の様相を収録した作品。新作漫才のみならず、ナイツの歌声も聴くことができる究極の一枚!!
ANSB-55211
¥3,800+税 販売中



『TKOゴールデン劇場5』
2015年に東京で開催された単独ライブ「TKOゴールデン劇場5」をDVD化!! 前公演から3年の時を経て、さらにパワーアップしたTKOのコントの世界を満喫できる一枚!
ANSB-55212
¥3,800+税 販売中

SHOW COM Vol.11
インタビューの完全版は、コンテンツリーグのウェブサイトで見ることができます。
Published by Contents League
<http://contentsleague.jp>
© 2016 Contents League Inc.
All Rights Reserved.
CONTENTS LEAGUE